

## やりたいことを仕事にしよう！ししょまろはん流仕事術

是住 久美子\*

職場内自主学習グループ「ししょまろはん」は、業務では出来ないメンバーのアイデアをいくつか実現させてきた。「ししょまろはん」は、司書としての専門性を活かしつつ、みんなの役に立ち、自分たちも楽しんで取り組めるアイデアを出し合い、それを試すことが出来る場であり、正職員や非常勤職員の関係を越えて対等に意見を出し合える職場内のサードプレイスにもなっている。また、ウィキペディアタウンなどの外部のコミュニティ活動に司書として参加し、役割を果たすことで新たな図書館の可能性に気付くこともある。取り組みの一部は、外からの評価や中の理解を得て、業務として取り組むことができるものも出始めている。ボトムアップでやりたいことを仕事に近づける一つの方法として事例を紹介する。

キーワード：学習会、専門職、公共図書館、ウィキペディアタウン、エンベディッド・ライブラリアン、カラーニング、フューチャーセクター、図書館計画、非常勤職員

### 1. はじめに

2013年から始めた京都府立図書館の職場内自主学習グループ「ししょまろはん」は、業務では実現出来ないメンバーのアイデアをいくつか実現させてきた。アイデアはミーティングの場や、メールリスト上でメンバーから出され、最少二人の同意が得られれば実行決定となり、日程調整に入っていくようなスピード感がある。そして業務では出来ないと思っていた「やりたいこと」をやっているうちに、外からの評価や中の理解を得て、業務として取り組むことができるものも出始めている。本稿は、業務外の活動である「ししょまろはん」流の仕事の進め方を紹介し、やりたい事を仕事に近づける試みを振り返る。

### 2. 仲間を集める

アイデアを形にするには、一人でやるより仲間とやった方が、より質の高いアウトプットが期待できる。「ししょまろはん」の結成は、3年前、仕事帰りに立ち寄った職場近くの喫茶店で、同僚の嘱託職員の女性が「学習会を作りたい」と言い出したのがきっかけである。その時筆者には、正直なところわざわざ学習会を作るのは少々面倒だという気持ちもあった。しかし、このような提案をしてくれた彼女の気持ちを無駄にはいけないと思ったことと、その場にいたもう一人の同僚も同意したこともあり、「よし、やろう」と学習会を立ち上げることになった。折しも、京都府の職員育成制度の一つとして、自己学習活動支援事業の募集があり、「活動資金をもらえるなら」と、この事業へも応募し、採用された。その頃職場では、長年凍結されていた司書職の新規職員採用試験が復活していたり、府立学校

の司書が人事交流で配属されていたりと、これまでごく少数であった20～30歳代の職員が増えつつあった。そのような職員や、職員定数が減らされる代わりに増えていた嘱託職員に学習会参加の声をかけたところ正職員・嘱託職員それぞれ8名の計16名の手が上がった。

### 3. アイデアを育てる

#### 3.1 アイデアはどこにあるか

アイデアはどこにでもある。飲み会などで誰かのアイデアを肴に盛り上がることはよくあることだが、実行することを考えると大きなハードルが容易に想像され、筆者もため息をつきながらいくつものアイデアを腐らせてきた。5000年ともいわれる長い期間人を魅了してきたキラークンテンツであり、どんな分野でも関連付けられる柔軟性を持つ「本」を扱っているのだから、本に関わるアイデアに困ることはないはずであるが、図書館において職員のアイデアが形になりにくいのはなぜだろう。その一つには、図書館を取り巻く厳しい状況が考えられる。公共図書館では職員の7割近くが非常勤<sup>1)</sup>と言われている。少ない正職員は、要望が大きすぎたり、公共財を大事にできない一部の利用者への対応、多様化する図書館運営上の課題などで精いっぱいである。一方、非常勤職員でアイデアを提案し、実行できる立場にある人はどのくらいいるだろうか。そもそも低賃金で不安定な身分にありながら求められた業務以上のことをやる義務はないと考えていても不思議ではない。ただ、そのような状況であっても、「こうであったらいいのに。こんなことが出来たらいいのに」と考えている職員は必ず存在する。

#### 3.2 アイデアを組み合わせる

「ししょまろはん」で活動のアイデアを出しあっていたところ、メンバーから京都市東山図書館が行っている取り組みが紹介された。東山区内の地域が出てくる文学作品をリ

\*これぞみ くみこ ししょまろはん(京都府立図書館勤務)  
〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9  
E-mail: korezumi@gmail.com (原稿受領 2016.9.21)

スト化し地図上に表示した冊子「東山区関連文学図書リスト<sup>2)</sup>」を作成し、リストにある文学作品を館内で展示しているというものだった。読書を通じて地域の魅力を再発見できる面白い取り組みであると感じ、この京都府域版を作ることになった。勤務している図書館では収集対象外であり、業務では取り上げることが難しいマンガやライトノベルの情報も加え、メンバー個人の感想やおすすめ度、出てくるスポットの位置情報を付与し、オープンデータとして誰でも二次利用できるライセンスでウェブ公開を行う、この「京都が出てくる本のデータ<sup>3)</sup>」と名付けられた取り組みは、東山図書館のアイデアにいくつかの要素を加え、組み合わせたものだった。

#### 4. 活動の後ろ盾

アイデアを実現させたいときに、それが自分の業務としてできるのであれば仕事として全力でやればよい。しかし、そのアイデアが自身の担当業務に関わるものではない場合や、どこの担当にも属さないような企画をボトムアップで通すのは、組織が大きくなればなるほど至難の業である。職員のアイデアや提案を出せる場があればよいが、そのような場がない職場も多いだろう。

「ししよまろはん」は、活動資金に釣られて京都府の職員育成制度である自己学習活動支援事業に応募したが、結果的にこの事業に採用されたことが活動の後ろ盾となった。職場内では職員育成に関わる業務外の活動ということで黙認され、イベントの会場として図書館の一室も提供してもらえたことにより活動を続けることができたのである。

#### 5. 仕事の依頼を受け、活動が広がる

オープンデータを作るにあたり、ATR Creative の高橋徹氏を講師に迎え、オープンデータの勉強会を開催した。そこで高橋氏より、国際オープンデータデイのイベントを関西で初開催するにあたり、ウィキペディアタウンを開催することになったが、ウィキペディアの編集に資料が必要だから司書グループである「ししよまろはん」に手伝ってほしいという依頼を受けた。司書や資料が役に立つならばと、このイベントに協力することになった。イベントでは、地域情報の調べ方のレクチャーや、ウィキペディアの編集に役立つ資料の提供を行った。

その後、この活動を引き継いだ「オープンデータ京都実践会」にもメンバーの一部が参加し、「京都まち歩きオープンデータソン」というイベントを2014年2月以降、年3回以上のペースで開催している。イベントの内容は、まち歩きを行い、そこで得た地域の情報を図書館の文献を参考にしてウィキペディアの記事として編集するウィキペディアタウンと OpenStreetMap という誰でも自由に編集・利用できる地図の編集を行うものである。2015年からはアートをテーマとしてウィキペディアを編集する Wikipedia ARTS も行っている。

目的を持ったコミュニティ活動に図書館司書が求められ、その活動に加わることで図書館の新たな可能性につい

ても発見することができた。

#### 6. 活動に対する評価

「京都が出てくる本のデータ」は LinkData.org のサイトで2014年2月に約30件のデータで初公開した。すると翌日の「はてなニュース<sup>4)</sup>」に取り上げられ、さらに翌日のカレントアウェアネス・ポータル<sup>5)</sup>において活動が紹介され、京都新聞<sup>6)</sup>の取材がきたり、関西ローカルのテレビ番組<sup>7)</sup>の出演依頼がきたりと、これまで経験したことのない出来事が数か月の間に起きた。また、「京都が出てくる本のデータ」は、京都フラワーツーリズム推進協議会のスマートフォン用のアプリ「ご当地なび<sup>8)</sup>」をはじめとした6つのアプリに利用された。「ご当地なび」では現在地から作品に出てくるスポットまでの経路案内が表示できるなど、聖地巡礼（アニメなどに出てくる実在するスポットを巡る）等にも使用できる。2015年3月には Linked Open Data チャレンジ Japan 2014<sup>9)</sup> というコンテストにおいて「京都が出てくる本のデータ」がデータセット部門最優秀賞を受賞した。授賞理由は「本に関するオープンデータを、司書ならではの、本の持つ京都度合いや与える印象という専門知識および、京都の地図データとリンクする事で価値あるデータに昇華して、世界にリリースしている点を高く評価」とあり、本に関するデータを図書館司書が再編集して地理情報と合わせてオープンデータとして公開した点、それが民間の団体によりアプリケーション化されたことが評価されたのではないかと考える。「京都が出てくる本のデータ」は、2016年9月20日現在で304件のデータが登録され、2700回以上ダウンロードされている。

#### 7. 活動を PR する

「ししよまろはん」の広報活動は、主にホームページ<sup>10)</sup>と Twitter<sup>11)</sup>を用いて行っている。Twitter では、「京都が出てくる本のデータ」をフォロワーから教えてもらうこともある。Facebook については、筆者はよく活用しているが、アカウントを登録しているメンバーは少数派であり、筆者の個人アカウントでイベントの告知等を行っている。また、国立国会図書館のカレントアウェアネスは、頻繁に「ししよまろはん」の活動をキャッチして掲載してくれるため、図書館関係者への告知に大変役立っている。

#### 8. メンバー間のコミュニケーションツール

「ししよまろはん」ではメーリングリストを活用してコミュニケーションを取っている。また、本のデータを蓄積したり、ファイルを共有したりするのに、Google のスプレッドシートや Google ドライブを活用している。意外なようだが、職場ではパソコンを使いこなす若い職員であっても個人では携帯電話しか持っていない場合もあるため、データの登録は紙の記入用紙も用意している。

#### 9. 実験の場として、職場内サードプレイスとして

「ししよまろはん」は学習会でありながら、司書としての

専門性を活かしつつ、みんなの役に立ち、自分たちも楽しんで取り組める事についてアイデアを出し合い、それを試すことができる場でもある。活動を通じて結果的に司書としての研鑽にも繋がっている。共通の目的を持つメンバーが、正職員や嘱託職員、上司・部下の関係を越えて対等に意見を出し合ったり、取り組んでいる内容に絡めて遊びに出かける計画を立てたりする、職場内のサードプレイスにもなっている。

「ししょまろはん」では、自分のできる活動に無理のない範囲で参加することを大切にしている。イベントへの参加はしないけれど、本を読んでデータを作成するメンバー、デザインや広報資料を作るメンバー、外に積極的に出ていき新たな関係性を作っていくメンバーなど、各自の特性と意向を重視した活動を行っている。

## 10. 庁内ベンチャー事業への挑戦

京都府の職員育成制度として、自主学習活動支援事業の他に、庁内ベンチャー<sup>12)</sup>という制度がある。庁内ベンチャー制度は、職員同士や外部の人たちを含めたチームを作り、自主的に調査研究を行い、京都府知事へ直接政策提案を行うことができる事業である。ウィキペディアタウンなどの活動を通じて、多様なバックグラウンドを持つ人が集まり、互いに助け合いながら新たな価値のあるものを作り発信していく活動に、図書館の場所や資料、そして司書が役に立てるという手ごたえを感じ、このような取り組みをもっと図書館で行うべきだと考えるようになっていたため、「ししょまろはん」メンバーから数人を募り、同じ京都府の文化関連施設である総合資料館や郷土資料館の職員にも声をかけ、2015年度の庁内ベンチャーに挑戦することになった。

提案内容は、以下のとおりである。情報通信技術の発展で、情報が容易に入手できる時代になってきた一方で、対面でのコミュニケーションも重要であるとも言われており、新たな人と人とのつながりの場が重要になっているなかで、京都府の文化施設を取り巻く状況は、さらなる機能強化へ向けた転換期を迎えている。図書館や資料館は京都府の知の集積拠点として、その場としての魅力を高め、人が集い、交流し、学びあい、議論する場を構築し、新しい物を生み出す活動を応援する場所への転換を行うべきである。そのような場には、お互いの知識の交換を行い、共に学びあうコラーニングや、様々なステークホルダーを集め、未来思考で対話し、変化を起こしていくためのフューチャーセンター<sup>13)</sup>、そしてコミュニティ活動を行い、学び・成果のアウトプットができる機能があるべきで、このような場を活性化していくために、コーディネーター、ファシリテーター役の職員が必要というものである。2015年10月の知事報告会でこのような内容をプレゼンしたところ、知事からはFacebook等のSNSを活用してぜひやりなさいというコメントがあった。

## 11. 業務外の活動から業務へ

### 11.1 サービス計画への影響

2016年3月に発表された京都府立図書館の5か年のサービス計画<sup>14)</sup>では、3つの基本方針が打ち出された。その1つが、「議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します」という文言である。また、基本方針に続く20項目の中に「知的な交流の場の創設」、「サービスデザインチームによる新たな取組への挑戦」が入っている。「ししょまろはん」、そして庁内ベンチャー事業での取り組みを基礎に、京都府立図書館の新たな事業展開のひとつとして組み込まれたものである。

### 11.2 京都府庁内への影響

庁内ベンチャー事業に取り組んだことで、京都府庁の他部署の職員から声をかけてもらう機会が増えた。協働推進や地域力の再生を担当する府民力推進課とは、「府庁NPOパートナーシップセンター×府立図書館 連続コラボ企画 ナレッジ×DIY『シラベル』<sup>15)</sup>」の開催を一緒に行うことができた。シラベルはNPO等まちづくりに関わる人や行政職員の「情報の目利き力」を向上させることを目的としたイベントで、今後は府内への展開も予定されている。また、政策企画部からは京都府スマートガバメント構築プラン(仮称)作成のためのアイデアソンの図書館での開催<sup>16)</sup>について打診を受け、実際に開催することとなった。図書館はアイデアソンをより有意義なものにするため、議論の参考になるようなIoT(Internet of Things)やAIなどをテーマとした書籍や雑誌など約100冊を会場へ用意し、ワークショップの進行の補助を行った。

## 12. おわりに

「ししょまろはん」の活動は継続している。2016年9月には、「本に出てくる京都の美味しいもののデータ(たべまろはん)」を公開したり、京都にゆかりのある著作者の没年を調査する「没年調査ソン」というイベントも開催している。

京都府立図書館内にサービスデザインチームが生まれ、そちらでも実験的な取り組みができるようになったことは嬉しいことだが、今後も「ししょまろはん」の活動は続き、その取り組みの中からも、業務へ繋がるもの、繋がらないもの(繋がらない方がむしろよいものもあるかもしれない)があるだろう。今課題だと感じていることは、図書館運営にとっても「ししょまろはん」の活動にとっても重要な役割を果たしている嘱託職員のメンバーが、「ししょまろはん」のような業務外の活動をすることで実績になったり、彼らの収入に繋がったりすることはできないかということである。この問題については読者の皆様とも情報交換や議論を行い、少しでもよい方向へ向けることができればと考える。

## 註・参考文献

(web 参照日は全て、2016年9月20日)

- 1) 「日本の図書館 2014」日本図書館協会, 「2012 自治体臨時・非常勤等職員の賃金・労働条件制度調査結果」自治労などによる
- 2) 現在は「京ひがしやま文学散歩」として発行 京都市東山図書館. 京ひがしやま文学散歩  
[http://www2.kyotocitylib.jp/?page\\_id=161](http://www2.kyotocitylib.jp/?page_id=161)
- 3) LinkData. 京都が出てくる本のデータ  
<http://linkdata.org/work/rdf1s1294i>
- 4) はてなニュース. 「小説・マンガに出てくる京都の各スポットを Google マップに表示 図書館司書がリストアップ」(2014年02月25日)  
<http://hatenaneews.com/articles/201402/19194>
- 5) 国立国会図書館. 京都の図書館司書が作成「京都が出てくる本のデータ」公開 (2014年02月26日)  
<http://current.ndl.go.jp/node/25565>
- 6) 京都新聞. 本に出る京都 司書「案内」地図, 説明文 ネットで公開 (2014.03.28 朝刊 20 頁)
- 7) 大阪ほんわかテレビ (読売テレビ)

- 8) ご当地なび <https://itunes.apple.com/jp/app/id398326620>
- 9) LOD チャレンジ Japan2014 受賞作品発表  
<http://lod.sfc.keio.ac.jp/blog/?p=2586#dataset>
- 10) ししょまろはんラボ <http://libmaro.kyoto.jp>
- 11) ししょまろはん Twitter  
[https://twitter.com/shisyomaro\\_han](https://twitter.com/shisyomaro_han)
- 12) 京都府. 庁内ベンチャー事業  
<http://www.pref.kyoto.jp/tyonai-venture>
- 13) 多様なステークホルダーを集め, 未来志向で対話を行うことにより複雑な問題解決したり, 変化を起こしていくための場のこと
- 14) 京都府立図書館. サービス計画  
[http://www.library.pref.kyoto.jp/?page\\_id=5792](http://www.library.pref.kyoto.jp/?page_id=5792)
- 15) 京都府. 【ナレッジ×DIY】第二弾『シラベル』応用編  
<http://www.pref.kyoto.jp/npo/psc/knowledgediy/shiraberu02.html>
- 16) 京都府立図書館. 「京都府スマートガバメント構築プラン (仮称)」アイデアソンに協力します  
[https://www.library.pref.kyoto.jp/?page\\_id=6757](https://www.library.pref.kyoto.jp/?page_id=6757)

**Special feature:** Work Style for Information Professionals. Let's make your aspiration as your job! - Shisyomaro-han's way of work -. Kumiko Korezumi (Shisyomaro-han (Kyoto Prefectural Library), 9 Seishoji-cho, Okazaki Sakyo-ku, Kyoto 606-8343)

**Abstract:** “Shisyomaro -han”, an intra-workspace voluntary study group, has realized many of members'idea, which has hurdles to do in their daily work “Shisyomaro-han” has become a field that enables to utilize the specialty as librarian, to share idea to challenge with both help of someone and joy of ourselves, and to try it. It is the “Third-Place” of workplace that people discuss equally beyond their position as permanent staff and temporary ones. Some of such trials have opportunity to be authorized as an official business by getting external appreciation or internal understanding.

Here we show one example as a method to make one's aspiration as one's job, with bottom-up approach.

**Keywords:** study group / public library / Wikipedia Town / Embedded Librarian